

# 「児島賞決まる!!」

## 受賞おめでとう

～平成16年度児島虎次郎を偲ぶ  
写生大会作品展～  
(敬称略)



「吹屋小学校玄関」  
(吹屋小学校5年 平岡 美友紀)



「リコーダーを吹く友達」  
(成羽小学校4年 物部 恵美)



「プールの横みち」  
(成羽中学校3年 田邊 明架里)



「シヨベルカー」  
(成羽小学校1年 別所 拓実)



「いもほり」  
(成羽小学校2年 高木 海瑠)



「校舎」  
(成羽中学校1年 堀 友里江)



「ひっばれひっばれ」  
(成羽小学校3年 日谷 匡兵)



「校舎」  
(成羽中学校2年 下 範子)



「橋のある風景」  
(成羽小学校6年 土田 浩史)

# 市民のページ

文芸たかはし

### 短歌

おだやかに昇る初陽よこの空の 彼方に悲慘の続く現実  
平 初音(高倉町田井)  
嬉しさも含めて書いて届けよと 高梁市になりましたと年賀状  
田中 弘子(川上町領家)  
初春の空に鶴舞い地に亀の 新市の平和幸せ祈る  
原田 由き(高倉町飯部)

### 「健康ひつちもう2」健康一行詩

備中町では「健康」をテーマに、日頃感じていることなどを詩に表現した「健康一行詩」の募集を毎年行い表彰しています。今年の入賞者は次のとおり。

#### 最優秀賞

「大事な夫よ！お酒を一升飲むよりも、私と一生涯で仲良く暮らせる飲み方をして！」  
井上美紀(備中町平川)

#### 優秀賞(小学校部門)

「わたしよ！早寝早起きしるー」  
ハメル・マイラ・ジュン(平川小5年)

#### 優秀賞(中学校部門)

「先生よ！喫煙、飲酒、その身体で「健康」といふ言葉使われても・・・」  
森重友貴(備中中2年)

#### 優秀賞(高校・一般部門)

「娘よ！実習で忙しいのはわかるけど、晩ごはんがおかしただけではさみしいよ」  
河西文子(備中町平川)

#### 入賞

江草美咲(平川小2年)、平松梓(富家小6年)、  
丹下徹哉(備中中1年)、平川公恵(備中中2年)、  
竹浪巨子(備中町東油野)、物部龍介(備中町平川)、  
ユトモア實  
井上貴美英(備中中1年)、川上信子(備中町西油野)

## 地名をあるく

### 三、成羽

「成羽」は、高梁川の最も大きな支流成羽川の  
中流域に位置して、南部の成羽川とその支流  
の島木川の河岸段丘(氾濫原)上に出来た低地と  
日名川沿いの狭あいな低地、そして中央部から北  
は、吉備高原面からなっている南東に細長い地域  
で構成されています。段丘面と高原面の境付近に  
は中生代三畳紀に形成された成羽層群と呼ばれる  
地層は、植物、動物、貝類などの化石が多く中生  
代化石の宝庫となっています。島木川流域の枝に  
は中生代三畳紀層の貝化石層に中生代白亜紀の硯  
石層が覆う不整合が見られ県指定の天然記念物に  
指定されています。また中央部の中村台にはカル  
スト地形が広がり、その西を流れる成羽川が老年  
期の準平原面を深く刻み石灰岩の断崖となって典  
型的なV字谷の地形を呈しています。

「成羽」の歴史は大変古く、平安時代の「倭名  
類聚抄」の下道郡の項に「五郷の一つとして、成  
羽」が書かれ、和訓で「奈之波」となっています。  
今の成羽町成羽付近に比定されています。中世に  
なると鎌倉時代の徳治二年(一一三〇七)に「大勸  
進沙門尊海の住寺」として「成羽善養寺」の名が  
出て来ます(笠神文字岩の銘文)。中世は「成羽荘」  
という京都天竜寺の荘園でした。永徳元年(一一三  
八)地頭職の三村信濃守跡の「成羽荘」を替地  
として天竜寺に寄進しています(「成羽町史」)。  
その後明徳元年(一一三九〇)に至っても三村信濃  
守は「成羽善養寺」に立てこもって室町幕府に抵  
抗を続けた(「講座・日本荘園史」)などあり、  
寛正六年頃(一一四六五)には「成葉」とも書かれ

ていました。(前掲日本荘園史)当時の成羽荘には、  
福地、西野野、日名、羽根、藤数村などがありま  
した。(成羽八幡神社舊記「渡辺家文書・県古文書  
集」)

近世になると一五六村となり、中・南部は成羽  
藩領、北部は幕府領と旗本領に分かれていました。  
元和三年(一六一七)に山崎家治が二万五千石で  
入部、成羽村に以前三村氏がつくった居館を利用  
しています。その後、水谷勝隆が五万石で入封、  
鶴首城の置かれた下原村に陣屋を築き、その後万  
治元年(一六五八)家治の次男山崎豊治が五千石  
の旗本(交替寄合)として入封して、水谷氏のお  
とを継いで陣屋を建設し、町割を整えています。  
下原の対岸にある成羽は、高瀬舟の川湊だった  
ところで、吉岡鉱山の銅や吹屋の弁柄、そして小  
泉銅山の銅、高原上の村の薪炭などを積み出す物  
資の集散地として河岸場が発達して、「成羽」は交  
通の要地として経済の核になっていました。

「成羽」という地名の由来については、諸説が  
あつて判断が難しいのですが、三つの説を紹介し  
たいと思います。一つには「なせは」(斜端)の転  
化したもので、石灰石の高原の端の傾斜地の意味  
を表す地名(吉田茂樹)。二つには「なり」(平坦  
地)・「は」(端)とい  
う意味で吉備高原を深く  
刻む土地(溝手理太郎)  
を表すもの。三つには水  
音を表す「鳴輪」・「鳴  
波」に由来した地名だと  
いう説(地名用語語源辞  
典)がいわれていて、自  
然地名としての説が多い  
のです。  
(文・松前後洋さん)



成羽山本付近から下原方面を望む